

平成 24 年度「市民懇談会」質疑応答・意見交換内容

(1) 1 日目 (平成 25 年 2 月 24 日 (日))

質問・意見	普天間における沖縄らしさについて、飛行場内には 3 つの旧集落（宜野湾、神山、新城）があるが、特に道路の幅に沖縄らしさを感じる。また、普天間には並街街道があるが、これを歩道空間（散歩道）として、沖縄の風土を楽しめるような場所になれば良いと感じている。
回答	学生の目線から貴重なご意見を頂いた。意見交換を進めていくにあたって「沖縄らしさ」が一つのキーワードに皆様からご意見を頂きたいと思う。
質問・意見	内容が難しく、ついていくのがやっとという感じだった。普天間は、宜野湾市に入ってくる入口のような感じがする。門前まちづくりとして、普天間神宮を中心としたまちづくり構想があるため、それと関連付けたまちづくりができれば素晴らしいと思う。私が考える沖縄らしさとして「赤瓦」を挙げたい。赤瓦を使ったまちづくりを推奨し、高い建物ばかりの商業施設でなく、皆が憩えるようなまちができれば良いと思う。先程琉球大学の学生さんの発表の中で、医療福祉拠点というお話があったが、素晴らしい考えだと思う。そういった商業ではなく、皆が憩えるような福祉のまちづくりが実現できれば素晴らしいと思う。また、ヨーロッパで成功している LRT など、芝生の上を路面電車が走るような空間を整備できればいい宜野湾市になると思う。買い物で来るのではなく、癒されるような、ゆったりとしたまちを期待している。皆さんのお話を聞いて私も夢が膨らんできた。
質問・意見	琉球大学の学生さんの発表を聞いて、少しご質問したい。土地需要そのものが低下している中で、新たな就業の場づくりというお話があったが、沖縄の場合、高卒者の進路未定者が約 18%（全国：約 6%）もいる。進路未定の一つの理由として、他県であれば東京や大阪、名古屋といったところに就職することについて、親も喜んで送り出すが、沖縄の場合には親が反対する。その中で、ご提案の中であった非有機産業のイメージを教えてください。
回答	介護職を考えている。沖縄の利点としては、人口ピラミッドが若く、労働集約型の産業を誘致することができるという点が挙げられる。全ての産業は段階を追って発展していくため、労働集約型の産業がきて、その裾野の広さから、規模が大きくなると先端型の設備を導入でき、その中で競争が起こり、技術が向上するという産業全体が高度化していく種になる。そこで医療福祉産業のもとになる介護職を中心に広げていきたいと考えている。
質問・意見	医療関係に関連して、最近ではインドネシアなどから研修生が来て、日本の試験に合格させて採用するという傾向がある。

質問・意見	私も同様の考えで、人と人の繋がりというコミュニティを形成する部分が沖縄の一番良いところだと感じている。
質問・意見	医療産業という話は、過去にNB ミーティングのメンバーから提案があった。沖縄は気候に恵まれているため、県外から医療観光目的で訪れる人たちを対象としたビジネス、産業として成り立つのではないかと思う。また、先程の琉球大学の学生の発表にもあったように、我々としては、普天間飛行場跡地の中だけを考えるのではなく、周辺市街地を含めた広域的な視点で宜野湾市のまちづくりを検討していくことが今後の課題だと認識している。普天間高校は、騒音の問題など勉強する環境に適していないところにあるため、環境の良い場所に移転した方が良いと思う。その中で、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄コンベンションセンターが連携した文教のまちづくりが重用になると考えているため、エリアを設定し、その中に学校を移転させるのも良いと思う。沖縄らしさという点では、視覚的に捉えられるものとして、「赤瓦」や「石垣」、「フクギ並木」などが挙げられる。時間が経過するにつれて変わるとは思うが、心に残るものを沖縄らしさとして残していく必要があると思う。一方で、沖縄から出て内地で勉強し、働く人もいるが、最終的には沖縄に戻ってくる。そういった人と人の繋がりが、ある意味で一番の沖縄らしさかなとも思う。
質問・意見	沖縄らしさという点では、最終的に人と環境に行き着くと私は思う。沖縄の特徴として、内地と比べて人が穏やかでのんびりしている点が挙げられる。最近関東に行く機会があるが、向こうは常に時間に追われるように人が流れている。沖縄でそのらしさが失われると、ここに来る意味まで失われてしまう。また、環境として、亜熱帯で場所にも恵まれている点は大きな特徴さと思う。内地からも多くの企業がその環境を求めて進出しているという話を最近耳にする。そういった環境や人が一番の沖縄らしさだと私は感じている。
回答	非常に貴重なご意見だと思う。皆さんからもっと意見を頂きたいが、時間も迫っているため、最後に本日お配りしている漫画本「みんなで考える夢のある普天間飛行場跡地のまちづくり」について、ご意見をお伺いしたい。これまではどちらかというと「文字」中心の情報提供であったが、今回は「漫画」で視覚的に見るという形で情報提供の方法を工夫している。今後はこの漫画をシリーズ化して皆様に情報を提供したいと考えているため、ご意見を伺いたい。
質問・意見	この漫画本については、どこを対象に配布する予定なのかお聞きしたい。
回答	現時点で内容も含めて案であるため、皆様からのご意見を聞いて対応したいと考えている。
質問・意見	対象はどのくらいを想定されているか。

- 回 答** 小学生から大人までを考えている。これまで地権者には地権者支援情報誌「ふるさと」、市民には普天間飛行場跡地利用ニュースをそれぞれ作成し、毎年送っているが、それも「文字」が中心であることから理解度に差が出てしまうという課題もあり、分かり易く少しでも関心を持ってもらえるように、今回漫画本の作成に至っている。この漫画本を検討委員会に出した際に、委員の皆さんからの評判が良く、シリーズ化して頂きたいとの要望を受けているため、シリーズ化を視野に入れて現在考えているところである。
- 質問・意見** 今まで見てきたパンフレットより、めちゃくちゃ見やすく分かり易い。普天間飛行場の面積など数字的なものもちゃんと載っているのも、直感的に見て良いなと感じている。
- 質問・意見** 交通渋滞など定性的な表現のものもあるため、何を根拠に言っているのかが分かるように出典先（報告書名など）を掲載して頂くと良いと思う。
- 回 答** 参考になる非常に貴重なご意見を頂いた。頂いた貴重なご意見については、今後の内容に反映させていきたい。

(2) 2日目 (平成 25 年 2 月 25 日 (月))

- 質問・意見** 昔、基地内に住んでいた人が追い出されて、基地外で生活をされている方がたくさんいると思う。その中で、公園というお話が出ているが、墓地や葬祭場を兼ねた公園にして頂きたい。また、基地内と基地外でどのようなメリット・デメリットが発生するのかお聞きしたい。
- 回 答** 墓地に関しては、いろいろなところでできているため、事業を行う際に訴訟に発展するケースもある。その中で、墓地公園の必要性は感じているが、現在の宜野湾市にはなかなか作る敷地が確保できない現状にある。現在、墓地埋葬法という法律が改正され、宜野湾市の中でも墓地をどのように整備していくかという計画を策定中である。普天間飛行場跡地のまちづくりは、道路整備等も含めて基地内と基地外全てに関わるものだと認識している。
- 質問・意見** 今日は琉球大学の学生の発表も含めて、夢のある非常に貴重なお話を聞くことができた。普天間飛行場は宜野湾市の真ん中にあり、非常に価値のあるものだと思う。これを最大限に活かすためには、観光という観点も含めて、那覇空港から跡地まで 20 分程度で来られるような交通網を整備すべきだと思う。また、宜野湾市には多くの人を収容できる沖縄コンベンションセンターがあるが、基地跡地内にも 5,000 名程度収容が可能な大規模なコンベンションセンターを作り、国際会議などができる施設として整備して頂きたいと思う。
- 質問・意見** 跡地内には、那覇や浦添なども一望できるぐらいの展望台・タワーも作って頂きたい。道路に関しては、真栄原から大山に抜けられるような地下道を作ってみてはどうかと思う。また、医療観光という視点から県外、海外から人が集まるような環境を整えることも沖縄の発展を考える上で重要だと考える。
- 回 答** 非常に幅広い視点からご意見を頂いた。本日お配りしているパンフレット（広域緑地（普天間公園等）の計画方針）もご覧頂きたいが、現在、県と市では共同調査の中で跡地利用計画策定に向けた計画づくりを行っている。跡地のまちづくりを進める上で、市民の皆様からの意見も非常に重要であるため、いろいろな視点、角度からご意見を賜りたいと考えている。頂いた貴重なご意見については、今後の内容に反映させていきたい。
- 質問・意見** マーケットの中で、一番おいしいところは民間のインセンティブツアーである。大規模会議などは、自治体を中心になって誘致しているが、引っ張り合いになっている。これから伸びていくであろう民間のインセンティブツアーが非常に大きなマーケットとなっている。プランニングも重要だが政策も並行して進めていく必要がある。また、沖縄の場合はキャンプを含め、スポーツコンベンションが盛

んになる要素を持っている。特に最近、マラソンにしても散歩感覚で楽しむ傾向にあるため、スポーツ系のスポーツコンベンションではなく、癒し系のスポーツコンベンションは可能性が非常にあると感じている。また、話は変わるが県市で進められている計画と小野先生の研究室で取りまとめた計画の根本的な違いを考えた。「着眼点」→「分析」→「企画・提案」という流れの中で、県市のものは「分析」から始まっていて「着眼点」が欠けている。理論的には正しい方向を向いてはいるが、「着眼点」がないと面白くない。一方で小野先生の研究室の皆さんで作られた計画は、「着眼点」→「分析」→「企画・提案」という流れで作られているため、聞いていて面白い。そこが大きなポイントだと思う。

質問・意見 地権者としては、住宅地として使いたいという希望があると思う。その中で、現在、考えられている計画を実現する上でも、地権者の理解が当然必要で、行政としては、地権者の理解を得るための話し合いを密にすべきだと思う。

回答 次の相続をするであろう世代の人たちを中心に「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」というまちづくり検討組織を立ち上げている。その中で、土地の共同利用等も含めて様々な議論をしている。この若手の会は、勝手に作った組織ではなく、地主会で承認を受けて活動をしている組織になる。また、先程活動紹介があったが、市民のまちづくり検討組織として「ねたてのまちベースミーティング」も組織されている。現状で、市民の皆さんは、普天間飛行場の跡地利用は地権者の問題だと捉えられている方が多い。例えば、跡地内に道路を通すことは周辺市街地にも関連してくるため、そこに住んでおられる方が地主になるため、決して地権者だけの問題ではないということを確認として持って頂きたいと思う。

質問・意見 大変良い活動だと思う。また、今日頂いた資料が多いため、この短時間で理解するのが難しい。できれば前もって頂けるような工夫をして頂けると、議論もしやすいと思う。

回答 貴重なご意見だと思う。このように、生の声を行政に届けて頂けるのは、今後取り組みを進めていく上で非常に有難いことだと認識している。また、このような場に、本日初めて参加された人もいると思うので、資料については是非持ち帰って読んで頂きたいと思う。

質問・意見 まちづくりをする上で、景観についても考慮して頂きたいと思う。沖縄の中心となるようなまちにするには、そのような建物の高さや色彩、デザイン等についてもある程度規制が必要だと考える。10階や20階といった建物が乱立するのではなく、バランスの良い素晴らしい景観を持った住宅地にして頂きたい。それは住宅地に限らず、公園も含めて観光客が散策したいと思えるような仕掛けが必要だと思う。また、外国の住宅地は垣根がなく、コミュニティがうまく形成されている。良いところは真似るべきだと思う。新しいモデル地域を考えることも必要だ

	と思う。また、大規模なまちづくりを行う上では、普天間ならではのシンボルが必要だと思う。
質問・意見	この場での意見や今日発表して頂いた琉球大学の学生による提案が、しっかり計画づくりに反映されないといけないと思う。このままでは、県市で作られている計画で決まってしまう。そこまで到達できるような仕組みを確立する必要があると思う。
回答	我々行政は、いかにして皆さんの声を拾い上げるかという部分が重要だと認識している。今ご指摘のあった、意見の反映については大きな課題だと考えている。将来的には、地権者の代表、市民の代表、行政の代表が集まった協議会を作りたいと考えている。
質問・意見	今は準備段階かもしれないが、調査が終わったものに対して意見を取り入れるだけではなく、調査・設計段階から意見を取り入れて頂きたいと思う。NB ミーティングは、非常にユニークな組織だと思うので、うまく活用して頂きたい。
質問・意見	企画・調査の段階で、ほとんど骨格が決まってしまう。その段階で市民の意見が入っていかないと、レールに乗って行ってしまふ。
回答	このように市民の皆様と行政の対話の機会があまりないため、その点は課題と考えている。そこで、本日活動紹介のあったNB ミーティングは、毎月第3火曜日19:00 から宜野湾市役所の会議室で定例会を開催しているため、今日お集り頂いた市民の皆様の中で関心のある方は、是非ご参加頂いて意見を出して頂きたいと思う。正式に入らなくても意見を言いたいときに来て頂いても構わない。
質問・意見	参加したいと思うので、案内を出して頂きたい。
回答	本日は非常に貴重なご意見を頂いた。今後もこのような対話の場を設けていきたいと考えているので、是非ご参加頂きたい。